

議長ティータイム

日時：令和2年7月28日（火）午後3時～

場所：議長応接室

（議長）

本日はお集まりいただきありがとうございます。

1 沖縄県議会第13期初議会について

初めての議会でしたが、最終日として特段、賛成も反対も討論もなく、無事終わることができました。会期中には、在沖米軍から新型コロナ感染者がたくさん出たということで、在沖米海兵隊が基地の外にあるホテルを滞在場所として借りているということがありました。その件については、私はもう議事進行をしていましたので、どちらかというと、私というよりも、与党の皆さんと野党の皆さんがしっかり連携を取って、その日で全会一致で採決をしたということは、すごくよかったことだと思っております。主体的に議員の皆さんが、早めにそういう対応をしたということは、今回の議会の会期中における私にとって一番印象的でした。金曜日の採決でしたが、土日を挟むとやはり案の定たくさん出ていたんですね。ですから金曜日のその日で、議会事務局にもちょっと汗をかいてもらい、代表者会議の中で、一番早いやり方は何かということ休憩の時間帯で決めて、それをやって、その日のうちに採決に至ったのは、やはり議会の役割としては非常によかったのかなと思っております。

新型コロナについては、今後も、今日で本会議が終わったとしても、結局状況が予断を許さない状況ですので、場合によっては、次はまた9月に開会ということではなく、必要であればすぐにでも議会の招集もあり得るでしょうし、そこは緊張感を持った迅速な対応をしていきたいと思っております。当初から私が言っているのは、二元代表制の一翼を担う県議会の役割は大いにあります。48名の県議会議員がそれぞれの選挙区から選出されておりますので、当然ながら皆さんはそれぞれの選挙区の地域に戻っていきます。そして、それぞれの地域の状況が分かってくるんですね。ですからその辺りは、事務局としてもアンテナを高くして、県の対応なども含めてですね、議会は議会の役割として、しっかりとやっていくべきではないかと思っております。

また、特別委員会が3つ設置できたのはよかったと思っております。前期や前々期辺りは、特別委員会が1つ2つしか対応できていなかったもので、今回はいろいろ議論もあったと思いますが、沖縄振興に関する部分も含め、子供の貧困対策も、また大事。どれも大事な部分、米軍基地関係も大事な部分なので、その件についても特別委員会としての役割は大きいのではないかと思っております。特に沖縄振興については期限があるので、その件については議会側も、いわゆる閉会だから何もしないということではなくて、やはりこの件については私が期待したいのは、それぞれの議員がしっかりその沖縄振興

について様々な、まあ地域の課題もあるだろうとは思いますが、それを全部集約して政府に求めていくこと、あと県とも連携を取っていくということですね。全て県に任せるのではなく、議会は議会としてしっかりやれるんじゃないか、やったほうがいいんじゃないかなと思っています。

また、今日は「尖閣諸島周辺海域での中国公船による漁船追尾等に関する意見書」と、新たな過疎対策法「過疎地域持続的発展支援特別措置法(仮称)に関する意見書」についての採択もしました。

そして私は今本会議の合間を見ながら断続的に就任挨拶をさせてもらっております。あした上京する日程になっておりまして、今回はコロナの件があるので上京することに迷っていたのですが、知事は渡航自粛をしないということを前々から言っておりましたので、最後まで迷いましたが、何カ所か就任挨拶に行こうと思っております。就任挨拶する担当者にもよるんですけども、やはり新型コロナの件も改めて議会の決議なども踏まえ、僕ら沖縄については特に米軍基地を抱えていますので、この件については沖縄に関係する大臣の皆さんをはじめしっかりとお願いしたいなということを考えております。

就任挨拶では在沖米国総領事館や防衛局長、外務省沖縄事務所のところにも行ってきました。特に在沖米国総領事館では、コロナの件についてはやはり米国もかなりの方が感染している状況もあるので、極力沖縄県は高齢者の方が多いので、誰が悪い、これが悪いといった話よりもしっかりと連携して、情報共有をさせてもらいたいということをお願いしました。防衛局長とお会いした後は、実はそのまま全駐労にお邪魔しまして、全駐労の委員長をはじめ、ズケラン、マリン、空軍支部、それぞれの支部長にも少し同席してもらいました。その席で初めて空軍支部長から、実は既に 3000 名の米兵が沖縄にもう入ってきてることや、これから 800 名がロテーションで入ってくる予定があるという話がありました。僕はこの情報を分からなくてですね、県も分からなかったんですよ。なので全駐労に行ってよかったなと思い、その後すぐ、全駐労の委員長と副知事に会ってもらい、PCR検査を早急にやってもらいたいと要請しました。その後、公明党さんが要請しているんですけど、僕はその前に全駐労の方と会っていたので、具体的な話を聞いたら、軍人さんが本国からロテーションで入ってくる際、飛行機やバスでの移動も、あとハウジングという居住するところでも、みんなマスクもしないし、もうめちゃくちゃだと言ってましたよ。飛行機やバス、ハウジングも一応掃除はするので、そこで感染する可能性の数字がかなり高いということでびっくりしました。

その辺りは、県の担当者にも明確にして、それをきちんと米軍サイドにも言わないといけないと思います。14 日間前後の待機についても、本当に守っているかも分からないし、その後、PCR検査をちゃんとやったほうが良いと、まあ知事も、防衛大臣にも要請しているのでその課題ですね。

また、緑が丘保育園の落下物についてやがて 3 年になるということで、就任後すぐに緑が丘保育園にお邪魔させてもらって見てきました。早速、地元の宜野湾市選出の県議 3 名にも同行してもらいました。保育園の皆さんの話を聞くと、この保育園はもともと飛行ルートに含まれてないんですよ。軍がそもそも飛行ルートを守っていないのです。ですからこの問題を時間が経っているからといって風化させるのではなく、ちゃんと飛

行ルートから逸脱させないことです。それでも実際には落ちているということで、この辺は陳情で議論をされているので、やっぱり現場に与野党問わず県議が参加したということは大きかったのかなと思っています。その日のうちに宜野湾市役所もを訪ねて、宜野湾市の副市長と議長ともお会いしました。議長から言われたのが、宜野湾はとにかく、この保育園のこともしかり、普天間第二小学校の窓落下物問題が深刻だと。彼らの要望としては知事が訪米をするときには、辺野古のことを言うのはいいけれど、宜野湾のことをちゃんと言ってもらいたいと言っていました。僕はそのとおりだと思いました。正直に言うと、要するに辺野古も反対は分かる、と。しかし、宜野湾の危険性についてはもっと言ってもらいたいというのは、宜野湾市民、議会、議長の正直な意見でしたので、私も辺野古は反対ではあるんですけど、やっぱり宜野湾の危険性ということも大事だと思っております。騒音もとてもひどいそうなので、先ほどの落下物の問題もありますので可能であれば早速、表敬も含めて普天間飛行場の視察もしてみたいなと思っております。

そして最後になりますが、全国議長会や九州各県議長会においても、もともと副議長も4年させていただいたので知っている方もおりますので、その方々ともしっかりと信頼関係をつくっていききたいですね。むしろ彼らの力は、特に日米地位協定などについてもとても必要だと思っています。また、この新型コロナ問題では沖縄だけが基地があるというだけでこれだけたくさんの感染者が出ておりますので、こうした問題は沖縄だけの問題ではなくて日米安保という部分を含めて考えていきたいと思っております。基地の被害、事件・事故もあるんですけども、今度はこのコロナの問題が出てきたことなど、正直基地があるために様々な問題が生じています。そういったことを、九州各県議会議長会議で皆さんに明確に伝えていきたいと考えております。

私からは以上で、あとは皆さんの質問に答える形で対応したいと思っております。

(記者) 今回、実際に議長になられて、議会運営、定例会などがあったと思うんですけど、改めて振り返って、議長としての難しさなどの感想はいかがですか。

(議長) 私は基本的に議場で動議や問題提起が出てきたときに、そこで解決するということは極力避けようと思っています。議場では解決しないんですよ。議場にはやはり、与野党問わずいろいろな思い、目的を持った議員の皆さんがいます。よほど議事運営そのものに支障が出るものは、当然ながらそれは議長として判断はしますけれども、しかし、イレギュラー的な部分が出てきた場合には、一旦持ち帰ってですね、議会運営委員会や代表者会議、そういったものでしっかりと議論したいと思っているので、極力そういう対応で行ってます。

それから、今回の議論になったネットに関する問題も、僕らは中身が分からないので、あれが議論されているときに、あれが本当なのか嘘なのか何なのかということは事務局にも分からないし、私も分からないんですよ。だからそこを私や議会事務局が下手に自分の意見や見解などを言ったりすると、もう途端に紛糾して空転になりますからね。この件についてはもちろん指摘する人は指摘する、意義があるからこそこれでいいのかと

いう思いを持っていますからね。彼らは選挙で通ってきているので、その場で言う権利もあるし、そうじゃないんだという議員も当然いますが、そこを個別に対応するというのはなかなか簡単じゃないので、その件については慎重にまた引き取る。一方で、議会はやはり議論の場ですので、全てを切っていくというのもよくないので、何回も言うんですけど、やはり本来、議員の発言権だったり、二元代表制の一翼を担う県議会として、議論をしっかりやってほしいとは思っています。私は県政も、議会も、県民のためにあると思っていますので、そこはしっかりと議会が議会の果たすべきことをやるということは、県民のためになると思っていますので、その件は私も議員の皆さんも、あと事務局側も同じ感覚じゃないかなと思っていますね。

(記者) 与野党が伯仲する中での議会ではあったんですけど、それで議長自身の立場が前回の議会と変わりましたが、前回の議会を含めて変化を感じることはありませんか。

(議長) 私は与党という立場にいますが、一方で議会の役割というのは議会基本条例も作っています。議会基本条例を事務局側ともう一度読み直しました。二元代表制というのは、最初から与党だ野党だと言ってそこを議場に持ち込むと、本来県民が望んでいることはそこではなく議会の役割をしっかり果たして欲しいという思いだと私は思っています。ある意味、議会で賛成の数が安定多数になるということは、何を出そうが何であろうが、何でも通っていくということは、果たして県民にとって大事なのかということですよ。ですから、条例にしろ予算にしろいろいろ提出する以上は、常に緊張関係を保つということは、私はごく自然なことでもあると思います。また一方で、県民のための条例や予算については、野党が要望して何でも反対ということもまた違うかなと思います。なので伯仲するということは議会の役割として、これは選挙の結果でもあるので私は議会の緊張関係は必要だと思っていますね。

(記者) 今後の議会改革として、どういったところをやっていきたいですか。

(議長) 議会改革推進会議もあるんですよ。そこで議論されていくかなと思います。副議長時代に高校生議会もやりましたので、投票権も 18 歳からなったということもあってですね、今後はまあ新型コロナが課題が多いんですけども、まあやはり政治というのは、国民であれ県民であれすごく影響が大きいと思います。今、世界的にニュースを見て感じていると思うんですけど、大統領によっては国民が本当に被害者になったりしますよね。政治に無関心だという方々、いわゆる子供たちに、議会について分かりやすく考えとか、ましてや高校生については私が望むことはやはり、みんなに政治に興味を持ってもらうということ、特に若年層を中心に持ってもらうということですね。やはり投票率を上げるためには、選挙前だけでなく、議会でどういうことが議論され、どの議員が何をしゃべり、そしてそれがどういうふう採択されたかなどを知ることですね。そしておそらくこの新型コロナウイルスで、国も県も財政が厳しいと思うんですね。しかし今はもうとにかく借金をしなくてはならない。そうすると、間違いなく次の

世代にこの借金が降りかかる。将来自分たちに降りかかってくるということを考えると、議会というのは非常に大事だと思うので、こういう若い方々、今後次の世代を担っていく方々が、この議会にもっと親しみと関心を持ってもらうということをやっていきたいなと思います。

(記者) 先の話になりますが8月に熊本県で開催される全国議長会ではどのような働きかけを考えていますか。

(議長) 全国や九州各県の議長の皆さんというのはほぼ自民党なんですよね。よく、のんでくれたなって思っているんですよ、実は。今はもう世の中みんな新型コロナの問題が課題になっているので、それによっても地位協定がここにもまた影響してきますよ、ということ具体的に伝えたいですね。信頼関係を築いてく上でやはり九州各県議長会の皆さんにはこの件は理解してもらいたいので僕は汗をかこうと思っています。全体の公式の会議の場というのは時間が限られるんですよ。ですから新たに会う方々、議長、副議長の皆さんについてはですね、各県議長会するときだけでなくできる限り、ちょっと意見交換など、視察に来るケースもあったりするので、議長としてそこは理解してもらおうようにしたいなと思っています。

(記者) 明日からの上京で、挨拶がメインだと思うのですが何らかの要望やお願いというのは考えていますか。

(議長) 就任挨拶として終わるのではなくて、実は沖縄というのは今、こういうことがありますよということはしっかり伝えたいと思っています。もちろん就任挨拶ではあるんですけども、沖縄に関係する方とお会いするので、今後はいわゆる対立だけじゃなくて、ちゃんと話し合いをしてもらうということをやったり理解してもらうということは大事だと思っていますので、そこをしっかりとお伝えして、また上京するタイミングで改めてお邪魔をさせていただきますということをお願いしたいと思っています。

では、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。以上。